

目次

流通BMS普及をリードするイオン、ユニー	・・・1
流通BMS Newsの発刊にあたって	・・・4

流通BMS普及をリードするイオン、ユニー ～ 共同実証参加小売4社の現状（上）～

流通 BMS News では、今号と次号の2回にわたって、流通ビジネスメッセージ標準（流通 BMS）を先行的に導入している小売業を紹介してまいります。

今号では、まず、イオン(株)、ユニー(株)の2社について下記の方々に個別にインタビューした結果を交えて紹介いたします。

- ・イオン(株) 宮崎巖情報システム部長
畔蒜多恵子情報システム部 SCM 推進タスクリーダー
- ・ユニー(株) 角田吉隆執行役員・システム物流部長

両社とも、現時点では導入対象取引先が少ないため効果も限定的ですが、今後、速やかに展開することで、受発注や物流業務における効率化に高い期待を持っています。

イオン、ユニーの流通BMS運用状況（2008年2月末現在）

小売業	接続先卸売業	メッセージ種	接続方式
イオン	伊藤忠食品	発注データ	ASP（3社） ebXML,AS2,JX 手順
	エコトレーディング 花王カスタマーマーケティング パルタック 菱食 他、5社	出荷データ 受領データ 返品データ 請求データ 支払データ	
ユニー	あらた	発注データ	ASP（1社） ebXML,JX 手順
	伊藤忠食品 花王カスタマーマーケティング トークン	出荷データ 受領データ 支払データ	

（注）接続方式の上段は EDI センター運営方式、下段は通信プロトコル

📌 流通ビジネスメッセージ標準（流通 BMS）とは

- 経済産業省事業を通じて開発されたインターネット利用を前提とする流通 EDI 標準です。今後は流通 BMS が流通業界における唯一の EDI 標準となります。
- 発注、出荷、受領、請求、支払などの EDI データについて、メッセージフォーマット、データ項目をその形式のみならず使い方まで標準を規定しています。
- データの表現形式としては、現在広く使われている XML を前提としています。
- 通信インフラとしては、ebXML/MS、EDIINT AS2、JX 手順といったインターネット EDI におけるデファクトスタンダードを使用することとしています。

イオン：業務効率化やコスト削減の実現に向けて迅速に展開

ある特定のカテゴリーを徹底的にやって、その業界のスキームが変わるくらいの成功事例を早く出したい。(情報システム部 宮崎巖部長)

◎導入状況

昨年の共同実証で接続した卸5社に加えて、その後説明会を開催したイオン九州の取引先3社などを加え、合計10社と本番運用している。さらに現在テストしているのが4社、待機中が60社ほどある。待機組の大半は、イオン九州と合併した旧マイカル九州のAPパレル関連の取引先でVer1.1の確定待ちである。

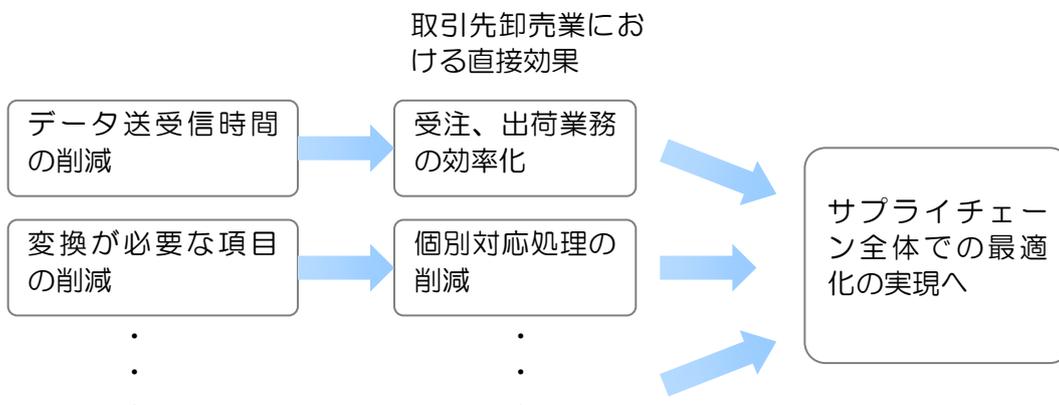
メッセージ種はVer1.0のすべてに対応している。返品データは菱食と本番稼働、パルタック並びに共同実証以外の1社との間でテスト運用している。取引先とのメッセージ交換は、ASP3社(インテック、NTTコムウェア、富士通FIP)を介してebXMLとAS2(サーバ-サーバ用の手順)またはJX手順(クライアント-サーバ用)で行っている。

◎期待する効果

イオンでは「取引先に浸透することによるコスト削減」と「送受信時間や作業時間の短縮によるリードタイムの短縮」が自社及び取引先にもたらす効果に期待している。

具体的には、取引先卸からは「発注データ受信時間が95%削減され、出荷作業に余裕ができた」、「発注データに陳列場所の情報が入るようになったので、得意先ごとの変換マスタ管理と個別対応プログラムが減った」という前向きな評価を得ている。

今後、流通BMSを利用する取引先が増えることで、取引先におけるコスト削減や時間短縮の効果を取引制度などの見直しにつなげ、流通サプライチェーン全体の最適化につなげたいという期待を持っている。



ユニー：低コストでデータ精度を向上する手段として期待

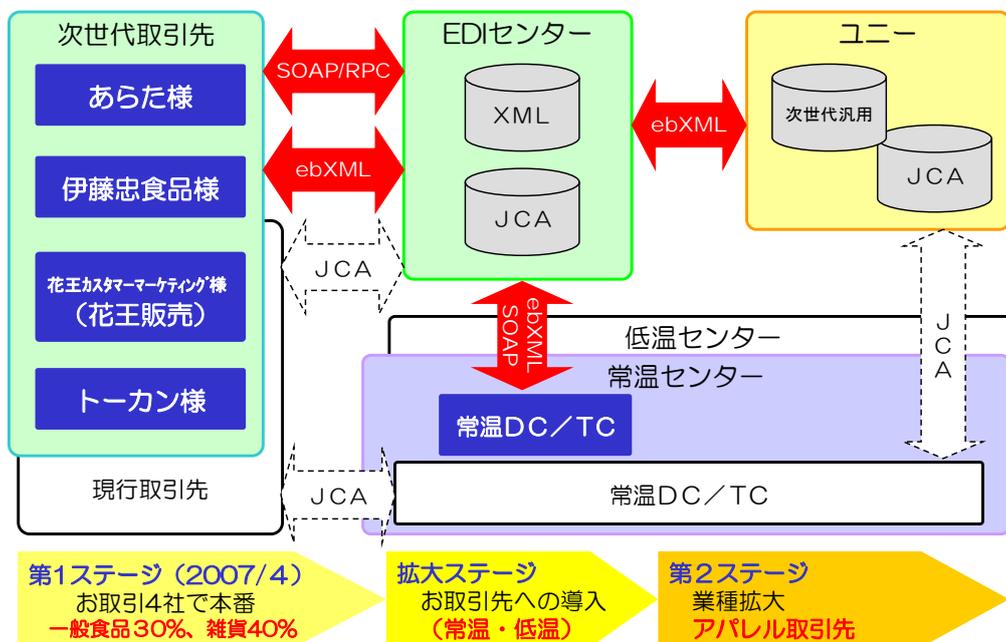
小売業、卸売業双方のデータ精度向上を、コストを掛けずに実現する手段として、流通 BMS の時間短縮と標準化による効果をアピールしたい。(システム物流部 角田吉隆部長)

◎導入状況

卸4社と共同実証を行い、返品データを除くメッセージの交換を行っている(EDI取引先は請求レスのため、請求データは交換していない)。

これによって、一般食品の30%、日用品の40%が既に流通 BMS で稼働している。ユニーと ASP (日立情報システムズ) 間のデータ交換は、JCA 手順の取引先も含めて流通 BMS に一本化しており、新旧の通信プロトコルとデータフォーマット変換、さらにメッセージ間のデータ整合性チェックは日立情報システムズで行っている。

したがって、少なくとも grosサリーの取引先とは、取引先の準備ができ次第、すぐにも流通 BMS でデータ交換できる社内体制は整っている。ユニーでは、端末認証等のインフラ整備(昨年11月に済み)、アパレル版メッセージのバージョン確定(本年3月予定)をもって本格展開を予定している。



出所) H19 年度第3回流通システム標準普及推進委員会 ユニー様講演資料より

◎期待する効果

ユニーからは「流通 BMS 接続している取引先食品卸では、従来に比べて1時間半早く出荷作業に入ることが可能となっている」との声が聞かれ、これにより「夜間の作業時間が減ることによる人材確保面のメリットや、年末年始などの繁忙期の作業で大きな効果を発揮するだろう」と期待されている。

また、取引先卸の統合やシステム変更に伴うシステム切替の打合せ時間減少にも期待を寄せている。具体的には、他の小売業にも共通に使える流通 BMS の採用によって、卸側をサポートする IT 企業の学習効果が高まり、仕様の打合せが短時間で済むという業務効率化に期待している。

(文責：(財)流通システム開発センター 研究開発部上級研究員 島崎 貴志)

流通 BMS News の発刊に当たって

財団法人 流通システム開発センター
常務理事 濱野 径雄

経済産業省が平成18年度より進めております「流通システム標準化事業」は、平成20年度が最終年度の検討となります。

この事業は、消費財流通の製・配・販で構成されるサプライチェーンの全体最適化を目指して平成15年度から3ヵ年実施された流通 SCM 事業の成果を引き継いでおります。この5年間で、企業間の情報連携をスムーズに行うために、商品情報や取引情報のやりとりに関する共通インフラの構築について検討して参りました。

その成果は、昨年4月に公開された「流通ビジネスメッセージ標準（流通 BMS）」の本番運用による効果という形で表われ始めております。流通 BMS は、インターネット利用の新たな標準 EDI と位置付けられており、業務の効率化や情報伝達のスピードアップ、経営コストの削減等、大きな効果が期待されております。

当センターは事業全体の推進調整役として毎年、全国で普及説明会を開催して参りましたが、流通 BMS の本番導入を境に情報提供のスピードアップを求められるようになりました。ましてや導入企業がどんどん増えている昨今、その要求は強まるばかりです。

そこで今回、説明会に参加された方を中心に、メールマガジン方式でタイムリーな情報提供を行うこととしました。その第1号として、先行して流通 BMS の導入を進めている小売業の現状をご紹介いたしました。

今後できるだけ旬の情報をタイムリーにお届けして参りますので、関係各位におかれましては流通システムの標準化にご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

発行者：財団法人流通システム開発センター 研究開発部

本件に関する問合せは、下記の URL にアクセスして頂きますようお願いいたします。

<http://www.dsri.jp/scmpjt/inquiry.html>